

編集後記

この花は馬車に乗って、海の岸を真っ先きに春を撒き撒きやって来たのさ——これは横光利一の小説「春は馬車に乗って」の主人公最後の台詞です。中学生で読んだ時は、小説とはいえこんな台詞を言う人間はいないだろうと思いました。そもそも題名からして少女漫画みたいで、あまり好きになれませんでした。実は最近、たまたま読む機会がありました。すると、この時の主人公夫婦の絶望的な狂おしさの中で発せられた最後の台詞があまりに自然で、とても驚きました。結核は文学、芸術の世界でも多くのインスピレーションを与えてきました。咳き込みながら情熱的な台詞を吐く映画や演劇も数多くみられます。池田屋で血を吐きながら立ち回りを続ける沖田総司、自らを鳴いて血を吐くホトトギスになぞらえた正岡子規などにも有名です。

この年になると、咳が長引くと「クウォンティフェロン検査しました？」と同僚に言われたりします。成人における慢性咳嗽の鑑別は結核、肺がん、COPD、心不全と色々あって、小児とはかなり様子が違います。今号では結核に紙面を割いたわけではありませんが、日常診療でしばしば遭遇する「長引く咳」に対するアプローチを特集いたしました。感染、免疫、アレルギー、GERD、後鼻漏、気道異物など多角的な視野で解説いただいています。実践的

で役立つ情報が病態レベルから詳しく解説されています。

総説では、まず精神病リスク状態（at-risk mental state：ARMS）について最新の情報をご紹介いただきました。実際この状態にある患者さんには小児科医がFirst touchをしていることが多いと考えられ、日常診療においても大切な知見でありましょう。続いて、すっかり定着してきましたタンデムマス・スクリーニングの現状について解説いただいています。コーディネート体制も整備され、今後新たな展開が期待されています。また、診療の記事としては小児の円形脱毛症についてその基礎的な病態生理から日常診療におけるガイドラインの内容まで詳述いただいています。

症例としては、BCG 関連、ピロリ菌関連の報告と、体格向上のためのプロテイン製剤によるアナフィラキシー例の報告が掲載されています。どれも示唆に富む大変興味深い報告だと思います。

夏場はエアコンが欠かせませんが、これがまた呼吸器系に色々悪さをします。熱中症も心配ですし、できれば東京を離れてリゾート地にでもいられば、というのは儚いのぞみですね……。

(伊藤 保彦)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第 58 巻第 7 号 7 月号

2017 年 7 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行）

定価（本体 2,600 円＋税）

年間購読料金

定価（本体 41,000 円＋税）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に記載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <（社）出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。